２　景観形成基準

市全域における届出対象行為に対する景観形成基準は下表のとおりです。着色部の景観形成基準は「特定届出対象行為」を表します。（景観法第 17 条）

なお、色彩の基準については、市内の約 120 サンプルの現地写真から地域の色を抽出し、色相・明度・彩度により把握した地域特性に基づき設定しています。

【届出対象行為（建築物）】

<table>
<tr><th colspan="2">行為制限項目</th><th>景観形成基準</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td rowspan="6">建築物</td><td>配置・形態</td><td>・まちなみの連続性を意識し、まとまりある景観を形成するように努める
・できる限り前面道路から後退し、圧迫感のない配置とするように努める
・ただし、周辺の建築物等の壁面位置が揃っている場合はこの限りではない</td><td rowspan="6">ランドマークとしての役割を果たす建築物等で、（蒲郡市景観審議会の意見を聴いて）市長が景観形成上必要と認める場合においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>屋根</td><td>・屋根は、周辺のまちなみや地形と調和した形態意匠とする</td></tr>
<tr><td>色彩</td><td>・建築物の外壁は、周辺のまちなみや建築物と調和した色彩とする
・色彩は以下の基準を超えないものとする
（Ｐ36 参照。以下同様）
<table>
<tr><th>色相</th><th>彩度</th><th>明度</th></tr>
<tr><td>7.5R～10Y</td><td>４以下</td><td rowspan="2">２以上</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>２以下</td></tr>
</table>
・ただし、着色していない木材、土壁等の自然素材や無彩色のガラス等の材料によって仕上げられた部分の色彩または見付面積の３分の１以下の範囲で、外観のアクセント色として着色される部分の色彩においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>素材</td><td>・周辺の景観と調和し、経年変化による退色や汚損しにくい素材を用いる
（自然素材は除く）</td></tr>
<tr><td>付属設備</td><td>・屋外や屋上に設ける設備は、道路等の公共空間から見えにくい場所へ設置するように努める
・やむを得ず設置する場合は、建築物と一体的な意匠の目隠しや緑化により見えないよう配慮する</td></tr>
<tr><td>外構・緑化</td><td>・敷地内は植栽などにより緑化に努める
・工場や倉庫は、周辺の景観との調和に配慮しながら、敷地外周の植栽に努める</td></tr>
<tr><td>維持・管理</td><td>・建築物の良好な外観が保たれるように、維持・管理に努める</td></tr>
</table>

【届出対象行為（工作物・開発行為）】

<table>
<tr><th colspan="3">行為制限項目</th><th>景観形成基準</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td rowspan="5">工作物</td><td rowspan="5">擁壁、柵、塀</td><td>位置</td><td>・周囲のまちなみや山なみ、樹木、海等の自然資源等の状況を十分に把握し、良好な景観の連続性やまとまりを損ねないように努める</td><td rowspan="5">ランドマークとしての役割を果たす建築物等で、（蒲郡市景観審議会の意見を聴いて）市長が景観形成上必要と認める場合においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>形態</td><td>・道路などに面する柵等の施設は、周囲のまちなみと調和するような形態とし、圧迫感のないものとするように努める
・建築物と一体的に建設する場合は、建築物本体の形態や意匠との調和を図る
・擁壁は、威圧感や圧迫感を軽減するよう、その形態や緑化を工夫するように努める</td></tr>
<tr><td>色彩</td><td>・外観は、周辺のまちなみや建築物と調和した色彩とする
・色彩は以下の基準を超えないものとする
<table>
<tr><th>色相</th><th>彩度</th><th>明度</th></tr>
<tr><td>7.5R～10Y</td><td>４以下</td><td rowspan="2">２以上</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>２以下</td></tr>
</table>
・ただし、着色していない木材、土壁等の自然素材や無彩色のガラス等の材料によって仕上げられた部分の色彩または見付面積の３分の１以下の範囲で、外観のアクセント色として着色される部分の色彩においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>素材</td><td>・経年変化による退色や汚損しにくい素材を用いる（自然素材は除く）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">橋梁、高架道路、高架鉄道など</td><td>位置</td><td>・周囲のまちなみや山なみ、樹木、海等の自然資源等の状況を十分に把握し、良好な景観の連続性やまとまりを損ねないよう努める</td></tr>
<tr><td>色彩</td><td>・外観は、周辺のまちなみや建築物と調和した色彩とする
・色彩は以下の基準を超えないものとする
<table>
<tr><th>色相</th><th>彩度</th><th>明度</th></tr>
<tr><td>7.5R～10Y</td><td>４以下</td><td rowspan="2">２以上</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>２以下</td></tr>
</table>
・ただし、着色していない木材、土壁等の自然素材や無彩色のガラス等の材料によって仕上げられた部分の色彩または見付面積の３分の１以下の範囲で、外観のアクセント色として着色される部分の色彩においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>素材</td><td>・経年変化による退色や汚損しにくい素材を用いる（自然素材は除く）</td></tr>
</table>

【届出対象行為(工作物・開発行為)】

<table>
<tr><th colspan="3">行為制限項目</th><th>景観形成基準</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td rowspan="4">工作物</td><td rowspan="3">電気供給、通信に伴う鉄塔、鉄筋コンクリート造の柱、鉄柱、木柱、アンテナその他これらに類するもの</td><td>位置</td><td>・周囲のまちなみや山なみ、樹木、海等の自然資源等の状況を十分に把握し、良好な景観の連続性やまとまりを損ねないよう努める</td><td rowspan="4">ランドマークとしての役割を果たす建築物等で、（蒲郡市景観審議会の意見を聴いて）市長が景観形成上必要と認める場合においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>色彩</td><td>・外観は、周辺のまちなみや建築物と調和した色彩とする
・色彩は、他法令に基準のあるものを除き、以下の基準を超えないものとする
<table>
<tr><th>色相</th><th>彩度</th><th>明度</th></tr>
<tr><td>7.5R～10Y</td><td>４以下</td><td rowspan="2">２以上</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>２以下</td></tr>
</table>
・ただし、着色していない木材、土壁等の自然素材や無彩色のガラス等の材料によって仕上げられた部分の色彩または見付面積の３分の１以下の範囲で、外観のアクセント色として着色される部分の色彩においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>素材</td><td>・経年変化による退色や汚損しにくい素材を用いる（自然素材は除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">太陽光発電設備</td><td>・目立たない場所への配置や周囲を植栽で目隠しするなど、周囲から見えにくくなるよう努める
・太陽電池モジュール（パネル）は、低反射で、できるだけ模様が目立たないものを使用する
・太陽電池モジュール（パネルのフレーム）は、低反射のものを使用する</td></tr>
<tr><td rowspan="3">その他の工作物</td><td rowspan="3"></td><td>位置</td><td>・周囲のまちなみや山なみ、樹木、海等の自然資源等の状況を十分に把握し、良好な景観の連続性やまとまりを損ねないよう努める</td></tr>
<tr><td>色彩</td><td>・外観は、周辺のまちなみや建築物と調和した色彩とする
・色彩は、他法令に基準のあるものを除き、以下の基準を超えないものとする
<table>
<tr><th>色相</th><th>彩度</th><th>明度</th></tr>
<tr><td>7.5R～10Y</td><td>４以下</td><td rowspan="2">２以上</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>２以下</td></tr>
</table>
・ただし、着色していない木材、土壁等の自然素材や無彩色のガラス等の材料によって仕上げられた部分の色彩または見付面積の３分の１以下の範囲で、外観のアクセント色として着色される部分の色彩においては、この限りではない</td></tr>
<tr><td>素材</td><td>・経年変化による退色や汚損しにくい素材を用いる（自然素材は除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発行為</td><td>形態</td><td>・法面や擁壁は圧迫感を与えないように形態意匠を工夫し緑化に努めるなど周囲の景観との調和を図る</td><td></td></tr>
</table>

【届出対象行為（その他】

行為制限項目	景観形成基準	備　考
土地の開墾、土石の採取、鉱物の採取その他の土地の形質の変更	・採取および採取等の行為が周囲から容易に望見できないような位置や方法などの工夫に努める ・遮蔽板や生垣を設け、行為が周囲から容易に望見できないよう努める ・稜線や山腹など眺望景観上重要な部分においては、既存の地形や樹木の保存に努める ・行為の結果生じた法面は積極的に緑化し、周囲の景観との調和を図る ・緑化にあたっては周囲の植生に配慮する	
木竹の植栽又は伐採	・周囲の自然景観との調和に配慮して、伐採は必要最小限となるよう努める ・稜線や山腹などの眺望景観上重要な部分においては、周囲の自然環境との連続性を保つなど、景観を損ねることがないよう努める	
屋外における土石、廃棄物、再生資源その他の物件の堆積	・道路等の公共空間から望見できないよう、敷地の周囲に周辺環境との調和に配慮した塀や植栽による遮蔽に努める	
水面の埋立て又は干拓	・自然植栽と調和し、生態系に配慮した植生の再生に努める ・周辺樹林の生育に支障をきたさないよう努める	

【参考】色彩基準のカラーチャート（市全域）

色彩基準は、ＪＩＳ（日本工業規格）Ｚ8721「色の表現方法―三属性による表示」に採用されている「マンセル表色系」※に基づき設定します。

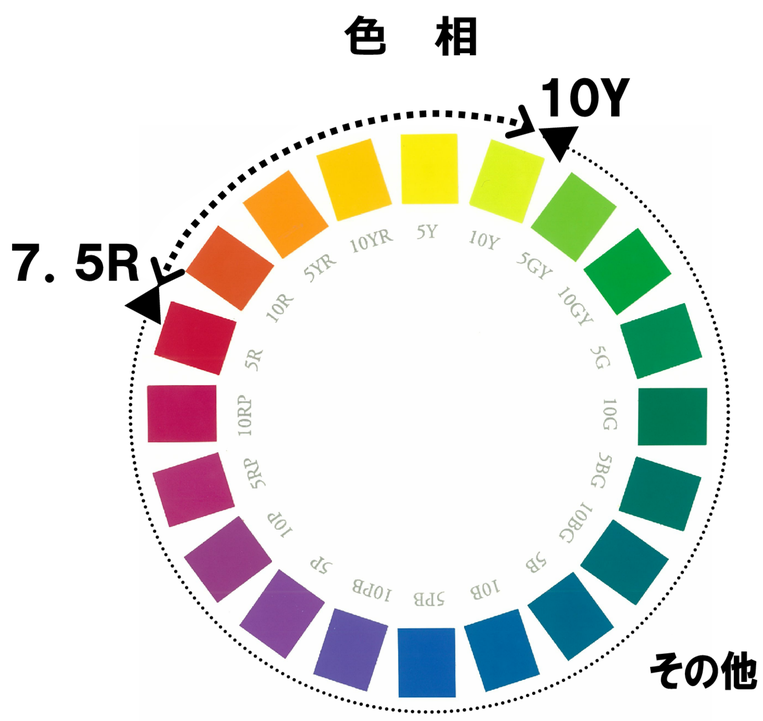
※マンセル表色系：アメリカの画家であるＡ.Ｈ.マンセルが創案したカラーシステムで、色の三属性である色相、明度、彩度により表現します。

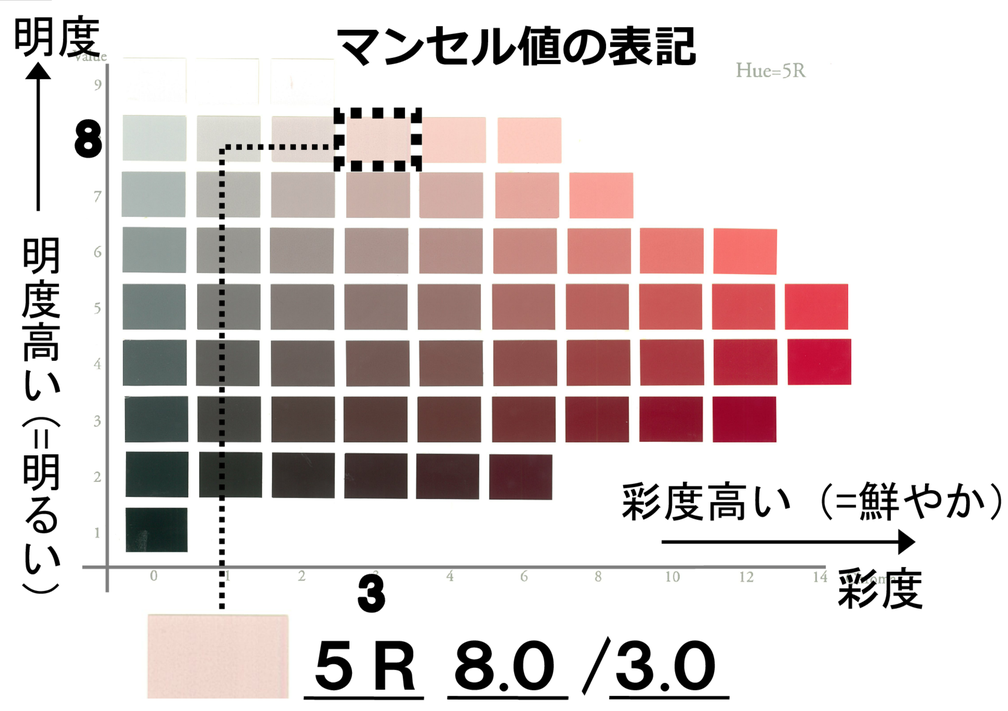
●色彩の景観形成基準

色相	彩度	明度
7.5Ｒ～10Ｙ	４以下	２以上
その他	２以下	

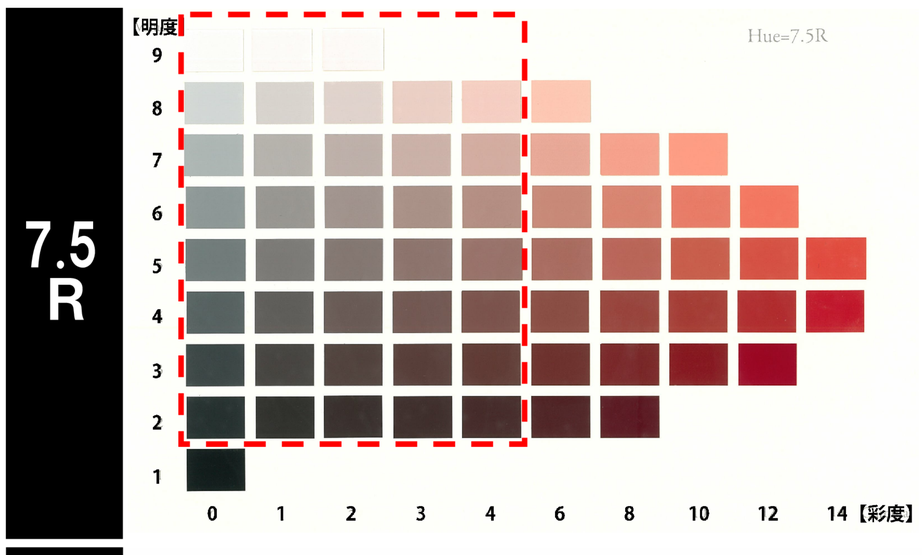
※注）下記の色は印刷のため、実際のマンセル値と異なります。

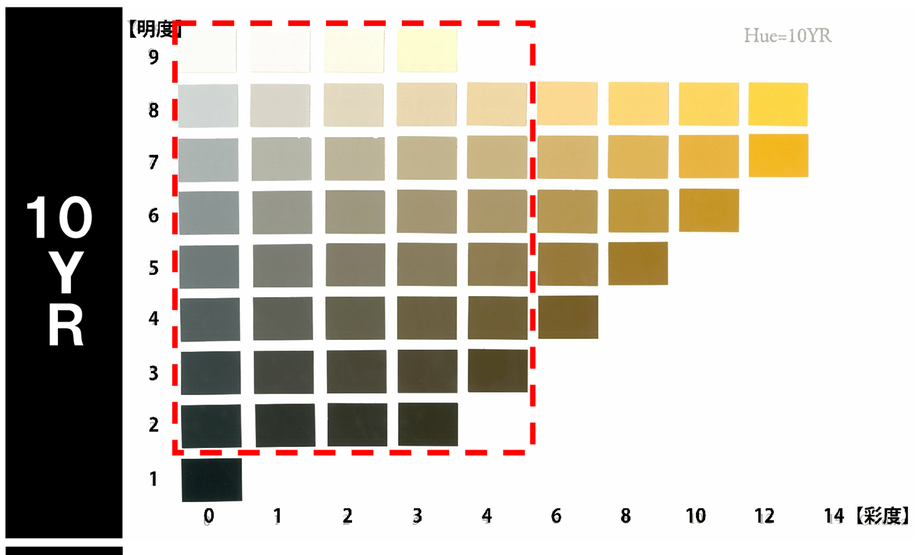
：景観形成基準

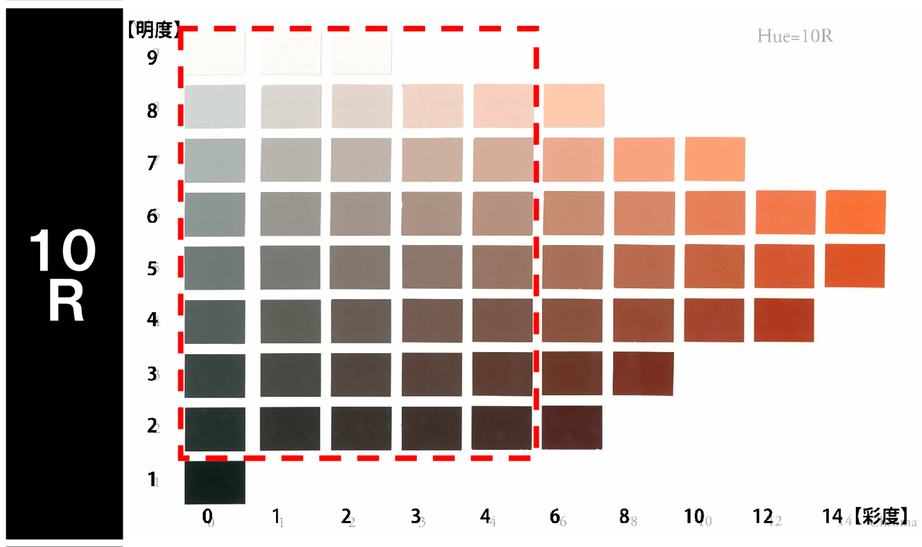


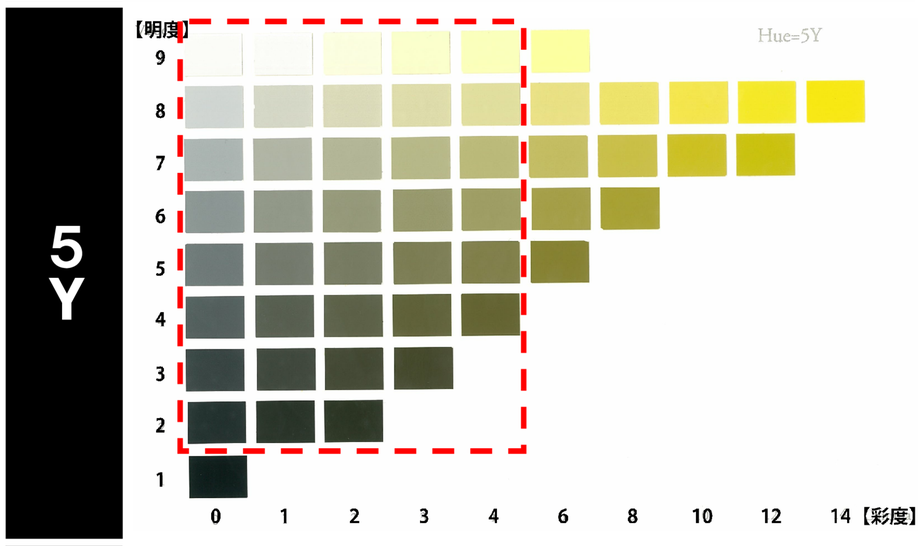


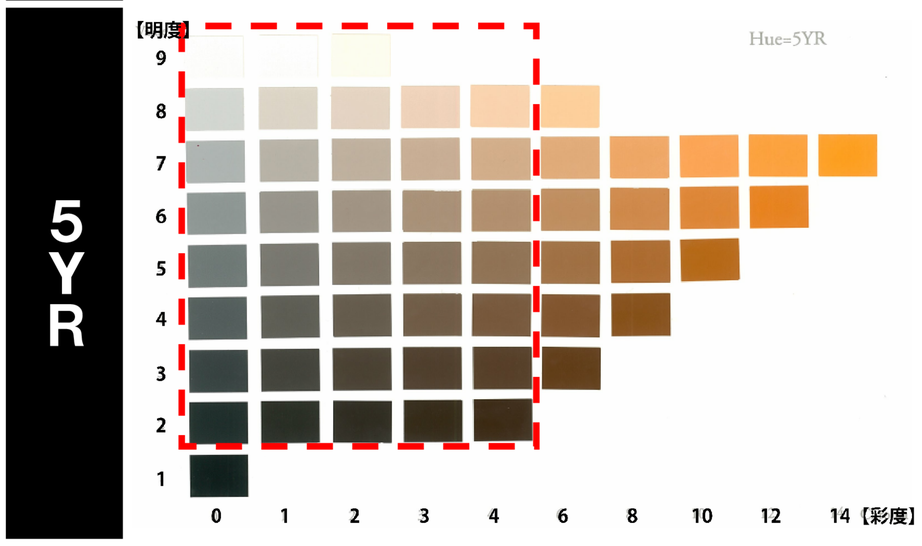
7.5Ｒ～10Ｙ

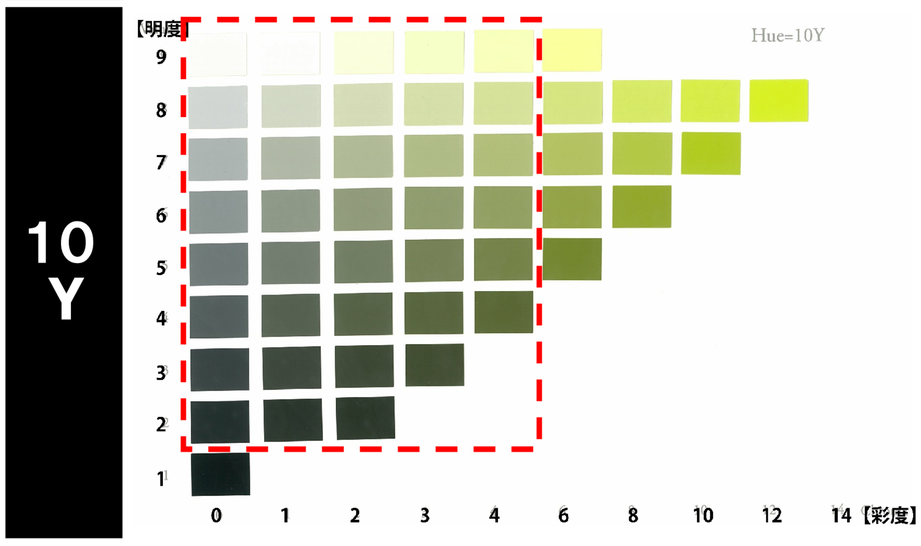






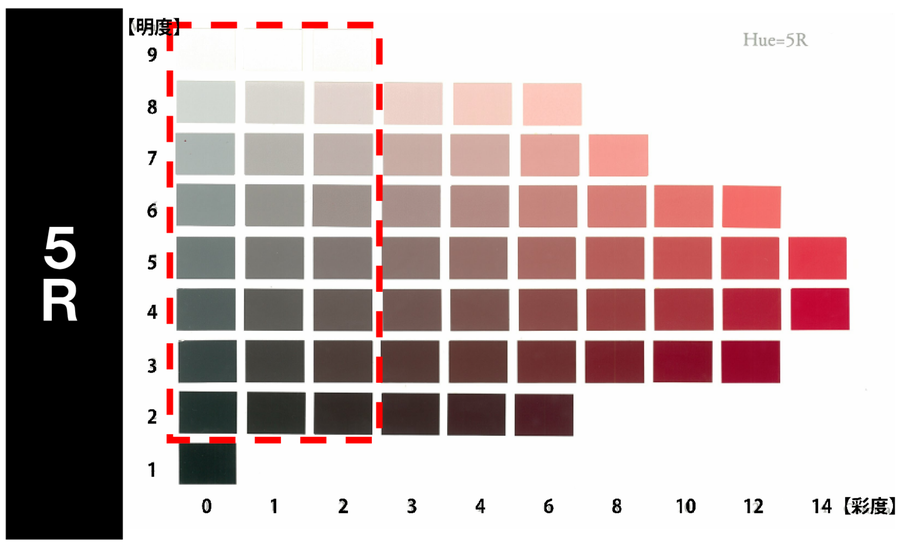


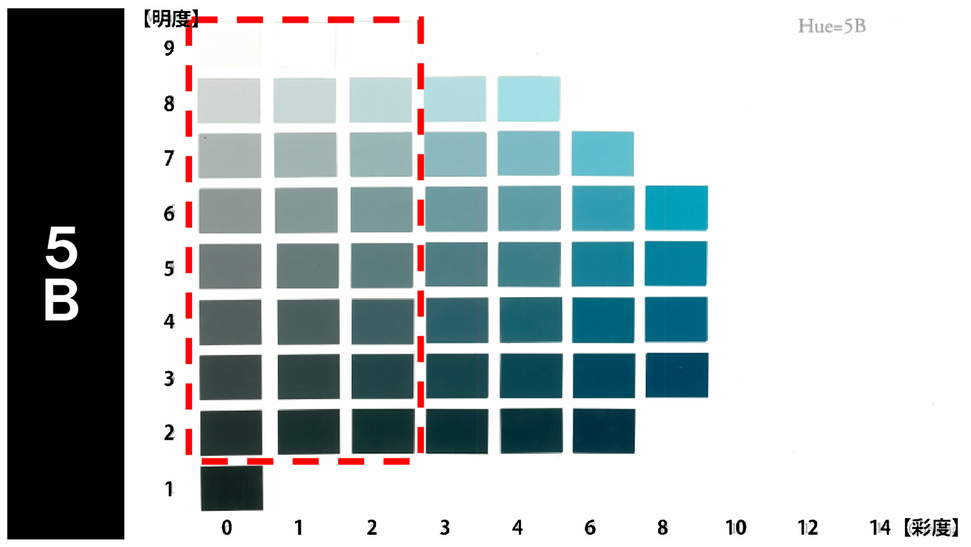


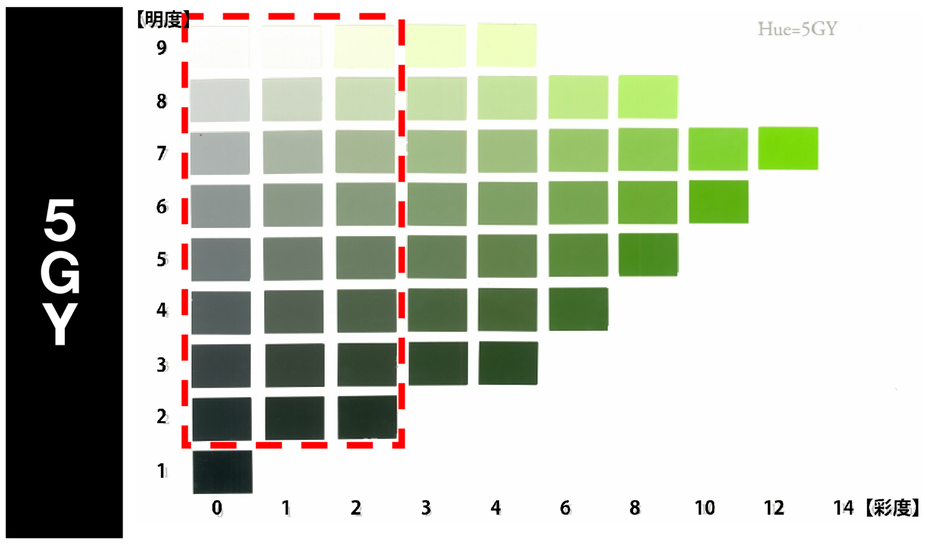


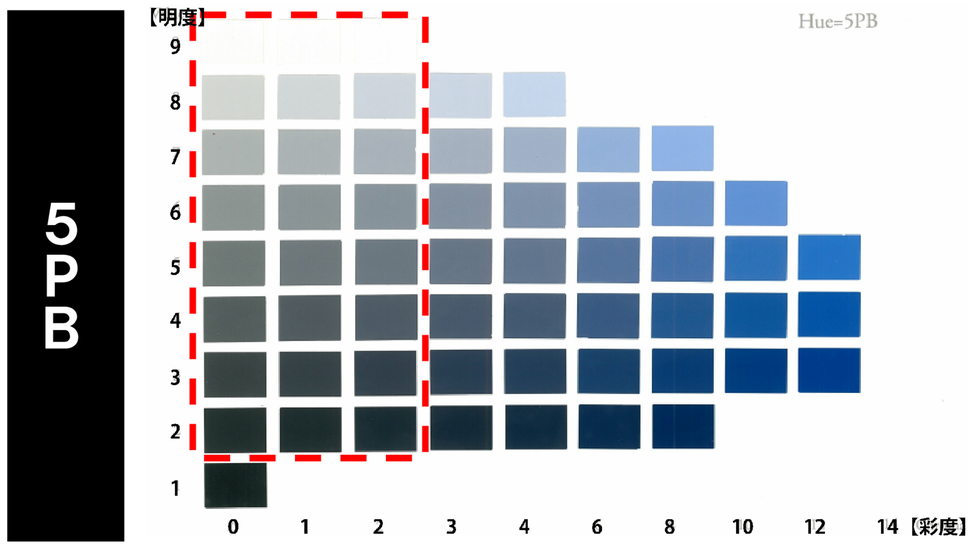
（資料:「マンセル表色系」日本工業規格 JIS Z8721）

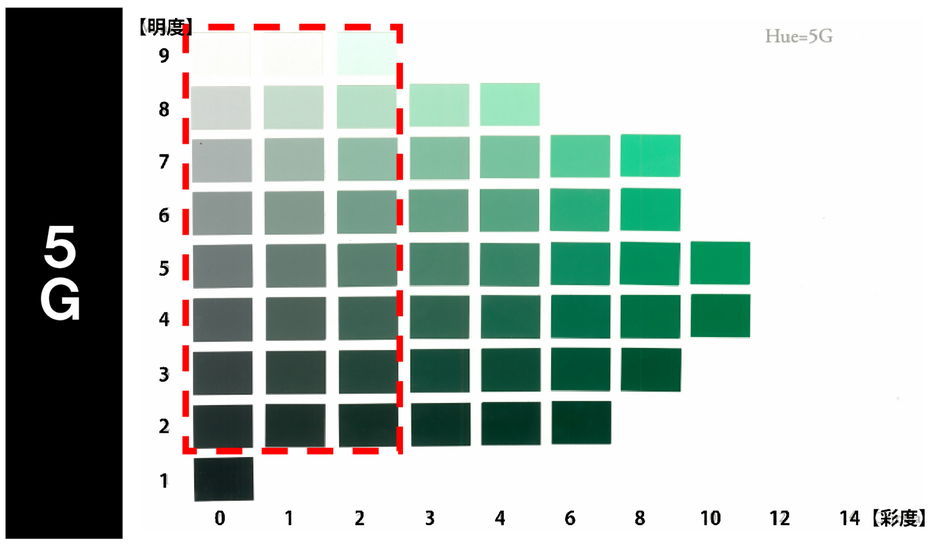
その他の色相

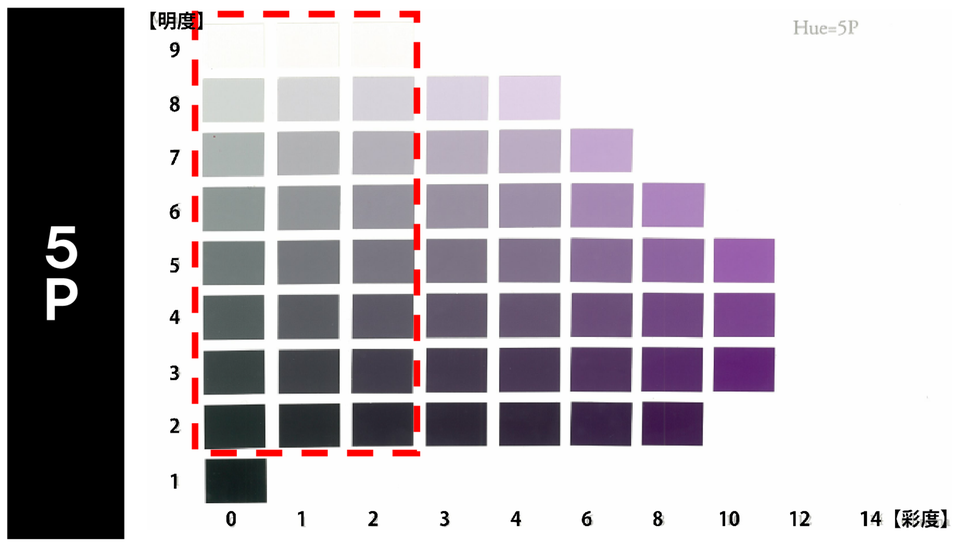


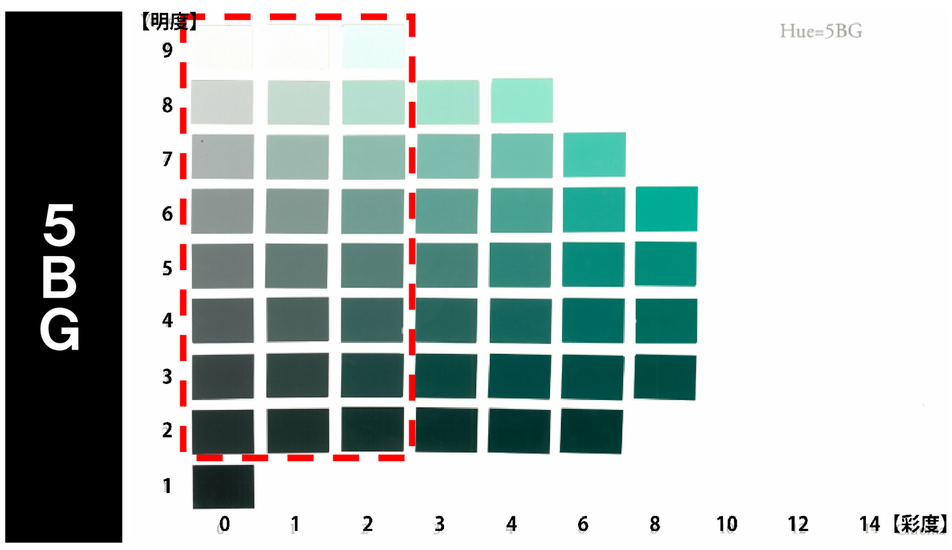


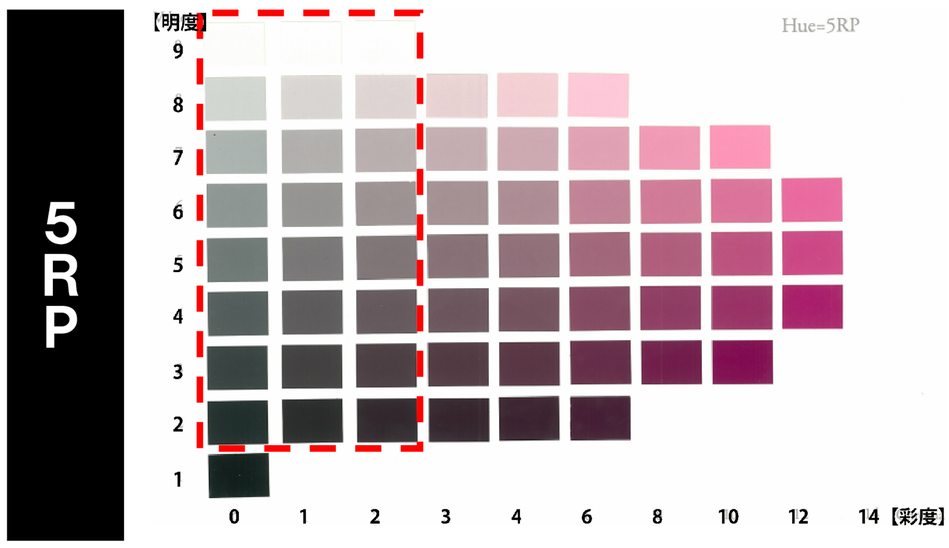












（資料:「マンセル表色系」日本工業規格 JIS Z8721）